

# 対等って？ なんだろう

## パート1 落語の世界を のぞいてみたら

2007年度のひらくのテーマは「対等」です。前号ではたくさん読者の読者から「対等な関係」についての意見を頂きました。様々な人たちが各々の立場で語ってくれた対等は、人と人が、お互いを尊重することが基本でした。

人が人と対峙する時、お互い自分の意見を臆することなく伝えるには、相手が自分のことを尊重しているという自信が必要です。立場や社会的地位、性別、年齢、取り巻く環境は違っても、自分を人間として尊重してほしい。例えば

手にとっては正解ではない意見でも、それを信じている人間がいることを認めてほしい。認めた上で自分はその意見には賛同できないことを、怒らず、威張らず話してほしい。

言葉にすると簡単なんですよねー、対等に付き合うって。でも実際はなかなかうまくいかない、って言うか一方が対等だと思っても、一方には何処か不満が残ったりする。どうしてなのかな？自分と違う考えを認めることは、そんなに難しいことなんじゃないか？

人間はそれぞれ自分だけのものさしを持っていて、物事の意味をそのものさしで測ります。細部まできっちり測ることのできる精密なものさし、全体を緩やかに把握して感覚を感じるものさし、良いか悪いかより好きか嫌いかが優先するものさし。種類や性能はまちまちだけれど、どれも使う人間の体験や考え方が反映された、世界で一つだけのものさしです。

いろんな形や色のものさしは、いろんな価値観を生み、生き方を生む。そのあるがままの形を自然に認める。どう評価するかは別にして、そういう価値観を持った人間がいることを普通に認める人間関係。平たく言えば「世の中い

ろんな人間がいて、だから面白い」という、柔軟性のある受け入れ方。つまり、多様な価値観を認める社会が、対等な関係を作り出す上で必要になってくるように思うのです。

### 落語の中の多様な価値感

多様な価値観という意味では、今ブームになっている落語の世界には、実に多様な価値観が見られます。



まずは与太郎。いつもぼーっとして、役に立たない、少し抜けたキャラクターの若者で、今で言うなら、「出来のワルイおちこぼれ」だが、落語の中では一番の人気者。ばかで、融通が効かないから、都合良く態度を変えたり、嘘をついたりその場を上手くごまかすことができない。もちろん、やりたくないことを正当化するために心にもないことだつて言えない。おかげで、世間では賢いと言われている人たちが笑い者になつてしまつても、それは与太郎の知

### ひらく編集会議をのぞいてみたら・・・

- ◇ 前回はKY（空気読めない）っていう言葉考えたね。「なんか違うな」と感じても何事もなかったように飲み込んで収めてしまつていいの、って話した。
- ◇ その場のノリや力関係で決まってしまうのも怖い、とかね。
- ◇ 日本にはいいものであれ悪いものであれ、その存在を認める文化があったはず、と江戸の歴史を調べてみて、何か分かったことあった？
- ◇ 江戸という時代劇とか男尊女卑を思い浮かべていたけど違っていたね。当時の男は女に冷たくできるような存在じゃなかったんだ。数が多かったからね。江戸には地方の次男三男坊が何かしようとしてたくさん集まつてきたんだよ。
- ◇ 家社会を捨てた後に自由があったんだね。今の日本も家社会とは違うと思うけど。
- ◇ 明治維新以降の儒教精神だけ引きずつていて不合理なものな・・・。
- ◇ そこは変わっていないようですね。
- ◇ 徴税とか戸籍の制度維持に便利だからかしら。
- ◇ 明治から半世紀以上新憲法まで徹底的に叩き込まれたものが、戦後真反対になったのにそこは叩き込まなかったね。
- ◇ 富国強兵の頃から日本は外圧がないと変わらないんだよ。
- ◇ それは世界に自分たちを合わせていこうとするやり方だね。
- ◇ 一人では考えないで皆で足並みを揃えたがると思います。しきりたりもイヤだと思つても守りさえすれば安全だと思つようですよ。
- ◇ それで観念が固定化してしまう。日常生活までしみついでいて本当の対等になりづらくなつてきている気がするね。
- ◇ 根源は日常の中にあるのか。相手の人間そのものを大事にするよりその人の後ろについている立場とか権威とか目が行きやすいのかな。
- ◇ 落語にはない見方よ。八つぁん熊さんたちって損得が効かないくらい貧乏だから。
- ◇ 熊さんたちは貧乏でも今のワーキングプアの孤立した存在とは違うね。長屋では固まつているもの。
- ◇ コミュニケーションがあるから楽しそうに見えるし、同じ貧乏でも自由に物が言える。棟梁にだつて物を言っているし、クビだと言われてもどうせ貧乏だつてね。

らぬところだ。



現代では完全に負け組、なんて言われてしまう貧乏長屋の、八と熊。江戸時代、最下層と呼ばれていた貧乏長屋の住人が、代表として登場する男たち。六畳一間に籠屋で暮らす彼等は、日雇いのその日暮し。花見はしたいが金はなし、仕方がないから花見の振りでもしようじゃないかと、たくあんを卵焼きに、番茶を酒に見立てて気分だけでも楽しみながら、その貧しさを笑いにする。金がなければ知恵を使って生活を楽しむたくましさを持つている。

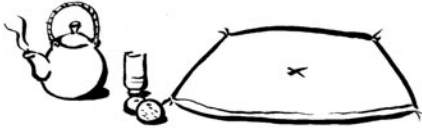


たくましい貧乏人と違って、生

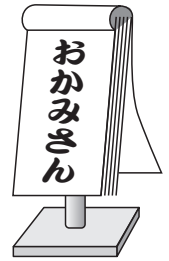
活力ゼロ、彼にとつて大切なのは食べることと、芸事と色事。小唄に長唄、吉原で花魁と遊び、それでもあきたら「あくび指南」と、真面目に働く世間の人から見るとふざけた存在。金持ちの親の金で面白おかしく生きていくことしか考えない、遊び人の典型として描かれている「若旦那」。だけれど、落語の世界ではちゃんと存在感を主張している。どうしようもない若旦那を、人々はばかにしつつ、それでも「妙に放って置けない」不思議な魅力に引かれて居候をさせたり、職を探したり、何かと手助けをしてしまう。



読み書きもできない、長屋の衆が、何かと頼りにするのが「御隠居」。たいていは家作を持つているような楽隠居の老人なのだが、金があっても家庭的には妻と二人暮しの寂しい日常。長屋の貧乏人たちが何かと相談に来るのを楽しみにしている。リタイヤした老人の



価値観もまた、落語の世界では大いに尊重されている。



落語の世界で登場する女性の代表は、おかみさん。貧乏は我慢できるけど、言いたいことも言えないような堅っ苦しい暮らしはいやだから、自分の亭主にだつてずけずけと悪口を言つてのける。でも、そう言えるのは亭主のことが好きだから、つてことも分かつてるところが、おかみさん特有の不思議な価値観。男を選ぶなら、稼ぎより面白味、という。江戸の女たちの人物本位な嗜好が、生き生きとしたキャラクターの源か？



どうです。このユニークなキャラクターが、江戸時代の生活を語つていく落語。「いろんな人がいるんなことを言いながら、いろんなふうに住っていく」自由な世界を味わってみると、「対等」という難しい言葉も、意外にほめてくれるような気がするのですが……。

◇損得勘定は対等を壊すのかもね。落語では階層の違いはあつても貧乏を怖がつてない。

◇ワーキングプアではどうかしら。励まし合いは見られない？

◇最近ユニオンが生まれてきたね。強い相手と対等に話し合うには集団になつて物を言うしかないと思うよ。

◇それにしても何かしようと群れることって少なくなつたね。「す豆腐」という落語では若旦那に腐った豆腐を食べさせてやろうつていう企みにわいわい群れて面白がつていうのがある。

◇パソコンやケータイは人を孤立化させるよ。相手はナマの人間じゃなくてパブリックというか全体になる。江戸時代は人同士のナマの付き合いしかなかったでしょう。

◇対等をじゃまするのは、ナマのコミユニケーションがないつていうことも知れないよ。

◇けんかだつてしなくなつてね。人を傷つけないようにしよう、とか、場を読め、とか。

◇傷つたことを逆に武器にするようなこともある。相手は傷つけるために言つたことじゃなくても、「傷つた」とかえつて相手を傷つたりね。

◇自分が傷つたことをいたずらに相手のせいにするようなこともあるね。

◇「〇がやつた」より、痛みと向きあつてそこを治すことを考えるのが先だと思ふけど？

◇公園でケガをしたから遊具を取り払うべきだ、というのもしやりすぎじゃない？

◇自己責任が相手の責任か、しかないのはおかしいと思ふよ。互いに話し合つて決めるというスタンスが必要だと思ふね。

◇直接話すのはイヤなのかしら。

◇それつて緊張を強いられるのよ。リラククスしていれば自然にできることなのに。

◇緊張は手軽じゃないんだから対等ではなくなるでしょう。緊張と気を使うとは別物だし。

◇ケータイのいじめも問題になるけど、ケータイつてそこに書いてある情報だけ受け取れないけど直接ワイワイ言つところでは別の情報も入るから薄まると思ふよ。

◇いじめだつて関係を持ちたがつていいる現われなんだろうけどね。

◇落語の群れは楽しくてそれだけで寄つていいるだけ。執着してないのが独特だね。

・・・と続くのでした。

# 特集1 続 対等って？ なんだろう

## パート2 江戸の歴史を ひもといてみたら

江戸時代は男尊女卑、という先入観がガラガラと崩れます。専業主婦がいなくて、女性も男性と共に働かなくては生きられない社会であったからでしょうか？



### 子どもの世話は父親に まかされていた

江戸時代、武士の場合は、男の子に読み書きの基礎を教え、剣道を教え、武士のたしなみを身に付けさせるのが父親の役割だった。少し大きくなると親の農作業を手伝ったり、商家や職人の親方の下に働きに出る農民や町民の子どもの教育も同様に、父親が行っていた。というのも、当時の女性も男性も避妊を知らなかったから、結婚するとしばし

ば妊娠する。「貧乏人の子たくさん」と言われたが、子どもが生まれれば母親は赤ちゃんの世話と家事で家を離れられない。少し大きくなった子どもの世話は父親がするしかない。家事も電化製品があるわけではなく、バチバチと薪(まき)や木材を燃やして食事をつくるので、その間も女性は子どもの世話ができない。小さい子どもには危険なので父親や地域の男性に子どもはまかされていた。おむつを替えることも男性がしていた、という。



### 妻の出産を 男性が手伝っていた

最近、出産にパートナーである男性が立ち合うケースが増えているが、江戸時代には産婦人科の病院がなかったから、産婆(今で言う助産士の役割をする年配の女性)とパートナーである男性が力を合わせて出産を手伝っていた、という。正に、出産も夫婦の協同作業だったのである。



### 結婚できる男性は 「勝ち組」だった

江戸時代、落語に出てくるような男性は日雇いの仕事や行商人をして生計を立てていたが、今で言う「ワーキング・プア」で、結婚する相手の女性の生活を引き受けるだけの経済力はなかった。そこで「二人口では食えなくても所帯

を持っては何とかなる」と男性は考え、「手鍋提げても」と考える貧乏覚悟の女性を見つけて、長屋(今でいえばアパート)の一軒を借りて同棲した。同棲には長屋の貸し主である「大家」の許可が必要で、婚礼も「大家」の指示を受けて行われた。

ただでさえ女性の人口が少なかった(1733年当時、男性を100人とすると女性は57・6人だった)。その上、一夫多妻制で武士や経済力のある男性が複数の妻を持っていた時代だから、社会の底辺に生きる男性たちは結婚相手を見つけるのに苦労させられていた。だから、結婚できればそれだけで「勝ち組」になったような気分だったらしい。



### 「三くだり半」は 離婚証明書？

杉浦日向子さん監修の「お江戸でござる」という本に、こんなことが書かれている。「三くだり半」は、自由再婚できる

時代劇などで男性が妻に「三くだり半」をたたきつける、という言い方が以前はあったが、これは意味を間違えていることがわかり、今はあまり使われていない。「三くだり半」は、自由に再婚できるように「離婚証明書」として女性が別れる相手の男性に書かせたもの。男性は仕方なく書かされたのを明治以降の男尊女卑の考えで育った人たちが誤って、男性優位の行為と解釈した。こうした常識と

う例は他にもたくさんある。

たとえば、男性が多かったといっても、多数決で物事を決めていたわけではないので、男性優位な社会ではなかった。結婚できない男性のために幕府が女性に2度以上の結婚を奨励したり、髪結いや女中など女性の仕事も多くて共稼ぎの夫婦も多かったり、鍋や釜を磨くなど男性も家事労働をよくした、という。

江戸の女性にとつての理想の男性は、経済力がなくても「おもしろくて、家庭を明るくしてくれる男性」だったとか。もてない男性は「じゃれをいくつか習ってから嫁をもらおう」そうだ。男性に対する女性の価値観が今とはかなり違う。



### 家業・財産の継承では 「女子」が優先された

農・工・商で、「家」の歴史である家系図が書き続けられていて、それを実証する寺と墓を維持できている階層では、家業と家の財産の継承は「一子相伝」とされ、女子を優先することが当然のこととされていた。

家業と財産を管理するのは先代から継承した女性、夫婦で言えば妻、一夫多妻制の当時では正妻だった。したがって、正妻の権限はすこぶる大きく、夫婦のあり方も当然だが、今とは大きく違っていた。特に商家ではそれが徹底していて、実子でも男性には継承の資格がなく、母親のお腹を痛めて生まれた女の子が継承し、婿を取って家業の経営を任せること

特集1●続 対等ってなんだろう？

驚かされる。当時のヨーロッパでは夫が前を歩き妻が後ろからついていくのが常識だったが、日本では女性が前を歩き、夫が後ろを歩いていったという。ヨーロッパでは家の財産は夫婦共有だったのに、日本ではそれぞれが自分の財産を持ち、時には妻が夫に高利でお金を貸すこともあった。当時の家庭での女性の地位の高さ、経済力が想像できる。

離婚が不名誉とされていたヨーロッパに対して日本では、いつでも自由に離婚

が多かった。1940年ころまでは、婿取りではない商家には金融機関もお金を貸さなかったといわれる。現在でも大阪を中心に関西地方に女系家族が残っているそうだ。

婿は、店員の男性の中から家業の経営に能力があると認められた男性が選ばれることが多かった。商家にとつて、その結婚は二人だけのことでなく「家」の公的なことであり、何かあれば連帯責任を問われる同業組合に入っている商家すべての承認が必要だった。

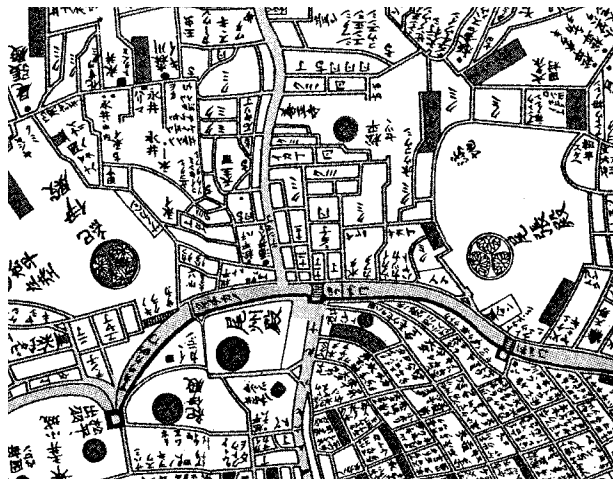


ヨーロッパからきた  
宣教師もびっくり！

1563年に来日して亡くなるまで34年間、日本で過ごしたキリスト教の宣教師、ルイス・フロイスは、ヨーロッパと日本の風俗習慣を比較して「日欧文化比較」という報告を書き残している。それを読むと、現代の日本に生きる私たちも

ができて、離婚経験がある女性でも再婚でき、生涯に3、4回結婚する女性も珍しくなかったという。妻が夫を離別することは許されないはずだったが、現実には数多く見られたとか。

現在でも夫の許可がないと外出できないという女性があり、外でも家庭でも男性に比べるとお酒を飲む機会も量も女性は少ないが、江戸の女性は夫に何も話さないで自由に外出することができたし、お酒を飲むこともごく普通のことと考えられていた、という。



「分間懐寶江戸繪圖」  
(資料提供 株式会社 人文社)

参考文献

鈴木理生著「大江戸の正体」(三省堂)、太田素子著「江戸の親子」(中公新書)、杉浦日向子監修「お江戸でござる」(ワニブックス)、高木侃著「三下り半と縁切り寺」(講談社現代新書)、WEBサイト「夜な夜なの夢・寺子屋」(ビギナーのための江戸講座2)

クイズ「江戸の女性に関する12の質問」

16世紀の日本とヨーロッパの女性の姿を比較したものです。あなたは、AかBか、どちらが日本の女性だと思いますか？

- 1 A 未婚の女性の最高の栄誉と貴さは貞操。  
B 処女の純潔を少しも重んじない。それを欠いても名誉を失わず、結婚もできる。
- 2 A 夫が前、妻が後から歩く。  
B 夫が後、妻が前を歩く。
- 3 A 財産は夫婦の共有。  
B 各人が自分の分を所有、時には妻が夫に高利でお金を貸し付ける。
- 4 A 罪悪は別として、妻を離別することは最大の不名誉。  
B 意のまま、いつでも離別する。妻はそのために名誉を失わず、再婚もできる。
- 5 A 夫が妻を離別するのが普通。  
B しばしば妻が夫を離別する。
- 6 A 娘や処女を閉じ込めておくことは極めて大事なことで、厳格に行われる。  
B 娘達は両親に断りなしに一日でも数日も、一人で好きな所に出かける。
- 7 A 妻は夫の許可がなければ家から外へ出ない。  
B 妻は夫に知らせず、好きな所へ行く自由を持っている。
- 8 A 女性が文字を書くことはあまり普及していない。  
B 高貴な女性は、文字を知らなければ自分の価値がさがらと思っている。
- 9 A 食事は普通、女性が作る。  
B 食事は男性が作る。貴人達はそれを立派なことと思っている。
- 10 A 男性は高い食卓で、女性は低い食卓で食事をする。  
B 女性は高い食卓で、男性は低い食卓で食事をする。
- 11 A 女性が酒を飲むことは礼を失うと考えられている。  
B 女性の飲酒はごく普通のことである。
- 12 A 男の衣服は女に用いることはできない。化粧品や美顔料がはっきり見えるのは不手際とされている。  
B 白粉を重ねれば重ねるほど、一層優美だとされている。

おまけ

妻が一方的に離婚できる5つの条件

- 1 夫が妻の承諾なしに、妻の衣類など持参財産を質に入れたとき。
- 2 妻と別居もしくは音信不通つまり事実上の離婚状態が3~4年続いたとき。
- 3 妻が髪を切ってでも離婚を願うとき。
- 4 夫が家出して12か月(古くは10か月)が過ぎたとき。
- 5 妻が比丘尼寺(縁切寺)へ駆け込んで3か月が経過したとき。

離婚でも女性が決定権を握れたためか、江戸の町は、離婚大国だったそうです。

\*ルイス・フロイスの「日欧文化比較」(岡田章雄訳・岩波書店「大航海時代叢書」IX)の第2章「女性とその風貌・風習について」に書かれた全68項目の中から、「大江戸の正体」の著者、鈴木理生さんが短いものを選んで、クイズにしたもの。いずれもBが日本で、Aがヨーロッパです。当たりましたか？

## 特集2

# ものさしいろいろ

## ～気になる絵本をのぞいてみると～

綺麗なものを見ると吐き気がするシュレック、身体は弱くても気持ちは強いはせがわくん、おかみさんの仕事なんか簡単だと思っていたおやじさん、いろいろなものさしで測った世界に、いろいろな人たちが生きている。

\*ここで取り上げた本は小平市の図書館で借りることができます。

### はせがわくんきらいや

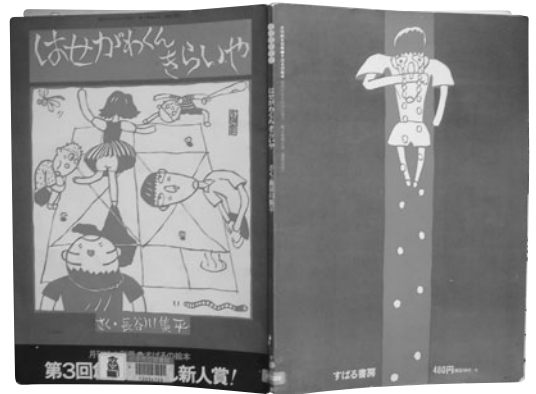
作：長谷川集平  
すばる書房

#### ●あらすじ

ぼくはぼくなりにはせがわ君と遊ぼうと思っている。でもはせがわ君は身体が弱って思うように遊べない。すぐ泣くし、せっかくとんぼをあげても平気で「いらん」と言う。だからおんぶしながら「大きらいや」と言ってやる。

#### ●よみどころ

相手を気遣うとは？ 障がいのある友達に面と向かって「きらいや」と言えるほどぼくの心は温かい。はせがわ君は森永ヒ素ミルクの被害者で作者もその一人。



### しごとをとりかえたおやじさん

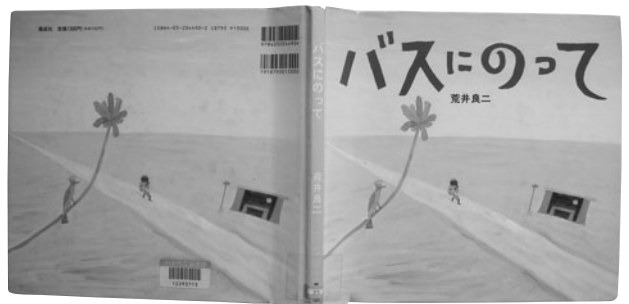
ノルウェーの昔話 再話：山越一夫  
画：山崎英介  
福音館書店

#### ●あらすじ

おかみさんのやり方が気に入らないおこりっぽいおやじさんが自信満々でやってみた仕事の取替えっこ。「こんなはずではなかった」数々の失敗に笑ってばかりはいられなくなる？

#### ●よみどころ

人の代わりはそうそうできるものではありません。どうしていばりたくなるのでしょうか。



### バスにのって

作・絵：荒井良二  
偕成社

#### ●あらすじ

少年はバスに乗って旅立とうとしていた。待っても待ってもバスは来ない。日を変えてやっときたバスも満員で乗れない。その間少年は鼻歌混じり。結局バスを見放し、自分の足で歩いていった。

#### ●よみどころ

5分の遅れもイライラするあなたにとって時間とは？ あせらず、人のせいにせず、自分の足で歩いていく少年の姿はさわやかです。



### わたし

文：谷川俊太郎  
絵：長新太  
福音館書店

#### ●あらすじ

わたしはお母さんからみると娘のみちこ。先生からみると生徒。他の人から見る25のわたし。

#### ●よみどころ

それでもわたしはわたし。25人の「わたし」がいるわけではありません。では、本当のわたしを知っている人は誰でしょう。

## 茶色の朝

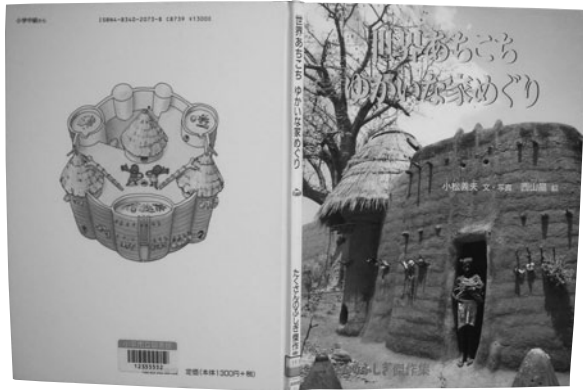
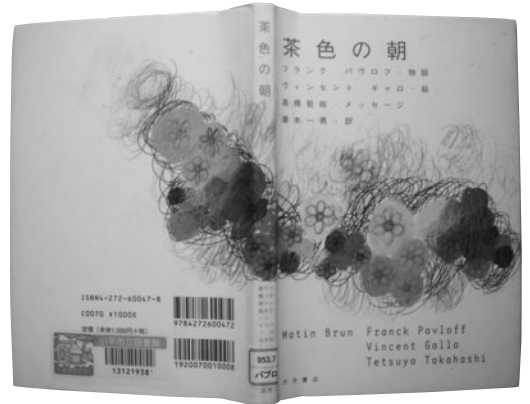
物語：フランク・パヴロフ 絵：ヴィンセント・ギャロ  
 メッセージ：高橋哲哉 訳：藤本一勇  
 大月書店

### ●あらすじ

ペット特別措置法は、茶色以外のペットは認めないというものだった。妙な法律だと思ったけど日々の暮らしに追われてそのままにしていた。それがまさか……。

### ●よみどころ

ものさしを持たないとどうなるか？“皆が使う”借り物のものさしを使っているうちに、自分がものさしに測られて、自分なりのものさしを持つことも許されなくなる。怖い話だ。



## 世界あちこちゆかいな家めぐり

文と写真：小松義夫  
 絵：西山晶  
 福音館書店

### ●あらすじ

岩山からよきよき生える小型の灯台のような煙突の下の家。300人も人が住むという山奥の巨大な円盤形の家。10か国の、びっくりするような家が写真とイラストで紹介されている。

### ●よみどころ

どの家もその土地のその自然に合わせて作られ、そこに暮らす人々と共にある。

## みにくいシュレック

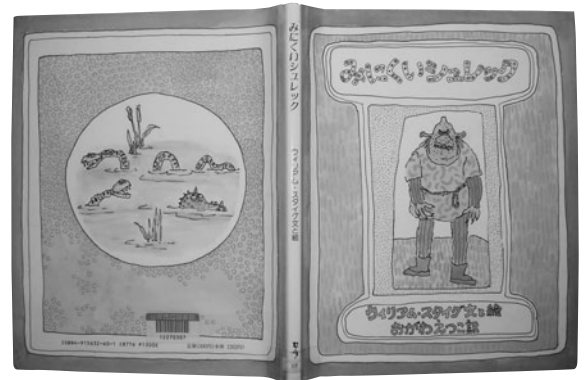
文と絵：ウィリアム・スタイグ  
 訳：おがわえつこ  
 セーラー出版

### ●あらすじ

醜い姿からくさった炎を吐き出し、ものすごい臭いを発散させるシュレックが、世にも醜い皇女を探す旅を続ける。

### ●よみどころ

ここでは美しさや優しさに価値はない。木々を枯らすほど醜いシュレックだが、優しくされると冷や汗を出してしょぼくってしまう。



## はなのあなのはなし

作：やぎゅうげんいちろう  
 福音館書店

### ●あらすじ

鼻の穴の役割、種によって異なる形状についてなど。

### ●よみどころ

生きていく上で欠かせない器官なのにほとんど無視されている。大切なものほど気付かれにくい。鼻の穴を観察すれば、人によっても種によってもそれぞれで、一人ひとりが違ってよいことが事実として分かる。

## 雨、あめ

絵：ピーター・スピーア  
 評論社

### ●あらすじ

雨だ。合羽を着て長靴はいて遊びに行こう。車に跳ねをあげられてもしりもちをついてもへっちゃらさ。家に帰ればあたたかなお風呂が待っている。

### ●よみどころ

「濡れるから出ちゃだめよ」、「雨だから外で遊べないわね」という大人は登場しない。



# ひろく広場

## 原稿をお寄せください

ひろくの記事や表紙の感想、その他なんでもOKです。原稿(500字程度)には干、住所、氏名(ふりがな、原稿掲載は匿名・イニシャル可)、年齢、も書いてください。採用された原稿は文意を変えずに短くする場合があります。

あて先/小平市小川町二丁目1333番地  
小平市次世代育成部青少年男女平等課  
「ひろく広場」係 FAX 042-346-9200  
byodo@city.kodaira.lg.jp



ひろく編集室はあなたにひらいています。

## 男性の家庭進出

「女性の社会進出」という言葉に対する言葉として「男性の家庭進出」という言葉がある。男女共同参画といっても「女性はどんどん社会に出てきてください。でも結婚して子どもを産んだら家事、育児もよろしくね。」という態度では男女共同参画社会にはならないからである。

男性に家事、育児を担わせるために男性を早く帰宅させようとする動きもあるが、家庭に居場所がなければたとえ男性の帰宅時間を早めたとしても、男性の暇な時間が増えるだけである。これは鶏と卵の関係でどちらが先かということではできない。男性を長時間働かせると家庭における男性の居場所がなくなる。すると職場が男性の居場所となり、男性は職場に長時間いるようになる。すると男性は長時間働くようになるのである。

私はこの閉塞状況を打破するためにでき

ればもつと行政にリーダーシップを発揮してもらいたいと思っている。例えば乳幼児の定期健康診断は父親が連れて行こう！と呼びかけるとか。

(兼業主夫 清水恭一)



東京都など八都府県で募集した「ワークライフバランスの実現に向けたアイデア」の優秀賞に、清水さんの「乳幼児健診は父親も一緒に行こう」という提案が選ばれました。

## 育児休暇をとってみて

私の会社では育児休暇制度があるにもかかわらず使う人はわずかでしたが、昨年九月の第二子誕生時に一念発起して約一か月の休暇を取りました。

職場には数か月前から休暇を取ることを宣言し、準備しました。上司や同僚も協力的であったため、必要な会議のため出勤することはあっても、メールなどのやり取りで特に仕事上の問題はありませんでした。

二人目でしたので赤ちゃんの扱いにはとまどうことは少なかったのですが、一人目の時と異なるのは、上の子がいるなかでの産後生活でした。上は三歳の女の子で出産入院時、母親と初めて離れて過ごした寂しさの反動と赤ちゃんが家に来たことへの複雑な気持ちで、かなりナーバスになっていました。そのため、休暇中は上の娘に多くの時間を割きました。

遊び相手になり、ほとんど毎日連れ出す

ことで、産後の妻も安心して心身共にゆくりする時間が持てたと思います。何より、ほぼ週末だけだった家族とのコミュニケーションの時間が増え、とても有意義でした。それぞれの家庭や職場の状況は様々ですが、まずは育児休暇を考えてみてはいかがでしょうか？ きつと思いきかけないメリットが生まれると思います。

(M・H 33歳)



## 「対等」は「コミュニケーション」から

前回21号の特集を読んで、いろいろな「対等」があることを知りました。私にとつての「対等」とは、コミュニケーションが成り立つ関係ではないかと考えています。

私は生まれつき耳が聞こえません。補聴器を使っても、何か音が入るだけで、どこから聞こえるのか、どんな内容なのかという識別ができません。相手の唇の動きを読んだり、筆談などでコミュニケーションをとってきました。一対一なら何とかなつても、三人以上の集団になると会話についていけません。何を話しているのか分からな

いまま、あとから要点や結果を教えてください。いつも居場所のないような寂しさを感じていました。そんな私が手話に出会ってからは、手話のできる人たちのおしゃべりがとても楽

しくて、今まで寂しく我慢していた集団の中での自分が消えていきました。疎外感を感じることなく、会話の内容を同時に共有できて、その場所に確かに存在している自分を感じる事ができ、生まれて初めて「対等」な立場になれた、と感じた瞬間でもありました。

聴こえない人にとつて、手話だけではなく、筆談や空書、またPCなどの機械を駆使して『目に見える情報』が充分にあれば、もつと「対等」になれるのではないかと思います。聴こえないから仕方がないとあきらめずに、周りの人も一緒に工夫しながら、いつでも、どこでも、どんな時でも、十分にコミュニケーションがとれるような社会であつてほしいな、と願っています。(雪んこ)



## 本当に賢い消費者になる

最近また、餃子をきつかけにして食の安全が話題になった。食品にしろ、生活雑貨にしろ、私たちは買い物をする時、多くの種類の中から選んでいる。選択できるというのは豊かさの象徴でもあるだろう。少し上の世代の方々は、この選べる豊かさを求め続けてきたかもしれない。

でも、いまはどう選ぶかの時代になってきていると思う。ついつい「安さ」を追求しがちなのだが、なぜ安いのか、他のメーカーと何が違って安いのかを判断してから

小平在住の女性を訪ねて、そのいきいきした様子や元気の素を伝えます。

# いきいきレディ20

## 「買物でできる国際協力」をする

チカス・ウニダス  
(=ともに歩む女の子たち)を訪ねて



「対等とは？」の質問に答えて…五十嵐南さん(代表・左)「知り合って認め合っている関係」／船越美樹さん(副代表)「違いに配慮したうえで同じ満足度が得られる状態」

今年度のひらくのテーマは「対等」。実際に対等な取引をすることで国際協力をしている津田塾大学のフェアトレード推進団体「チカス・ウニダスの学生二人に話を伺った。

### ◆無理なく続けることが大事

高校時代にフェアトレードのことを知った代表の五十嵐さんは、大学入学後は迷わずチカス・ウニダスに入り、ペルーのムヘレス・ウニダス(＝ともに歩む女性たち)とフェアな取引をしている。世界中には自分でどうにかできない、とてつもなく大きな貧困・飢餓・格差があるので、「私はこんな暮らしでいいんだろうか」と本当に落ち込んだこともあった、と話す。しかし、「フェアトレードで買物をする」という解決策を見つけてからは、無理なく続けることができるので前向きな気持ちになったそうだ。

### ◆人間としての誇り

チカス・ウニダスの主な活動は津田塾祭でムヘレス・ウニダスの商品を販売するこ

とと学内にあるカフェでフェアトレードコーヒーを扱ってもらうことだ。現地の女性たちはまだ自分たちで値段を決めるころまで成長していないようだ。そこで、商品の価格はムヘレス・ウニダスの指導をしている日本人女性と相談しながら決め、よく売れるように学生が買いやすい値段設定もしている。昨年度は前年度の約7割増しの売り上げがあった。それは、「ペルーの女性たちが頑張つて刺繍入りエコバッグやマフラーなどの商品をたくさん作ったことが大きいから。」「それと、私たちも広報活動を一生懸命しました。」と付け加えた。売り上げはそっくりペルーに送り、日常生活の向上や子どもたちの教育のために使われる。ペルーの女性たちが自分たちで作ったものを売ることで経済的自立を獲得し、人間としての誇りを持つことができるということは何よりも素晴らしいことだ。

### ◆課題とこれから

チカス・ウニダスの活動で苦労していることは何か、との問いにフェアトレードそのものがなかなか分かってもらえないこととチカス・ウニダスの活動報告の難しさという答えが返ってきた。フェアトレードを単純に「産地直送」と理解する人がいるのも悩みだそう。最近では地球環境や国際協力に関心を持つ人たちが確実に増えているので、船越さんの言う「身近に持続的にできる国際協力」のフェアトレードは人気が出てくるだろう。新聞や書店でフェアトレード本を見かける機会が多いことでも分かる。お金だけで計らない本当の豊かさを求める人たちが世界を変えていくのではないだろうか。二人の話を聞いて思うように思う。二人の力を信じたいと思った。

\*裏表紙のカラー写真もご覧ください。

買いたい。もちろん、味や使い心地といった趣向も、商品を選ぶ上で大切なポイントだが、A社製でもB社製でもいいのなら安か性や環境への配慮だけでなく、さらにその企業は社員を大切にしているか、男女の雇用差・活用差はないかなどの企業としての姿勢を知って、買いたいと思う。それが、「買う」という消費者としての武器を最大に活かすことになる。賢い消費者というところが古臭くも聞こえるかもしれないが、こうした情報を得て本当の意味で私たち消費者が賢くなつて企業の姿勢を見守り判断していくこと、それが企業と対等な関係を作っていくことになるのだと信じている。



3匹の子豚のママ

### 「ひとり親家庭」になったとき

配偶者との離別、人生の中でも大きな出来事だろう。二人の間に子どもがいればなおさらのこと。自分のことだけでなく、子ども、子どもの未来のこと、周囲

との関係の変化にもなう実務を、多くの場合、一人で請け負うことになる。国や自治体の補助制度は、ひとり親家庭にとつては命綱となる。ところが、現在の行政のシステムでは、ひとり親に関する補助制度について、一括して教えてくれるところがない。たとえば私は数年間、水道料金の一部減免制度に気づかなかつた。心安らかに、ある程度時間の余裕をもって暮らしていれば、年に一度送られてきた書類のなかの減免の記述に気づいたのだろうか…。

こういう疑問から始めたのが「小平市ひとり親連絡会」だ。月に一度はおしゃべり会で情報交換をする。HPに情報をのせる。ひとり親は自分だけではない、ということに励ましになるし、同じ状況で、いきいきと生活する仲間に出えることがうれしい。元気をもらい、分け合い、あたらしい明日を迎える気持ちがわく。まだ始めて一年足らずだが、少しずつ会員を増やし、HP活動も充実させていこうと思っている。

(小平ひとり親連絡会 代表 笹 和紀)  
http://park.geocities.jp/mawaruki  
メールアドレス  
mawaruki@yahoo.ne.jp

### チカス・ウニダス

(スペイン語でともに歩む女の子たち)

2004年に津田塾大学国際関係学科菊地京子ゼミを中心に立ち上がった団体。ペルーで編み物・刺繍の技術を教える、菊地教授の友人、鍋木玲子さんを通じて現地の女性団体ムヘレス・ウニダスと適正価格で商品取引を行う。現在のメンバー数は昨年12月に入った1,2年生を含め、26人。年々活動の幅を広げ、学生が現地に直接行ったり、昨年は東京ウィメンズプラザフォーラムや横浜国際フェスタにも参加した。2007年度の津田塾祭では可愛い刺繍入りエコバッグを完売し、マフラーも人気商品とのこと。2008年度の津田塾祭の日程は11月7日～9日で、近隣の市民にも公開されている。

ホームページは  
<http://chicasunidas.web.fc2.com/>

### ムヘレス・ウニダス

(スペイン語でともに歩む女性たち)

2000年にペルーの首都リマのスラムに住む女性たちの生活向上を目的として作られた団体。日本人女性の鍋木玲子さんが、編み物や刺繍の技術を教えている。製品は鍋木さんがペルー、アメリカ、日本などへ運び販売して収入を得て、基本的な生活の向上をめざす。男尊女卑の考え方が根深い国だが、女性たちが収入を得ることで家庭内の地位が上がっている。また、自信をもった女性たちは他の女性たちに技術指導をするほど成長してきている。ムヘレス・ウニダスは文字通りともに歩む女性たちの団体になっている。



# ひらく 掲示板

## フォーラムと講座

### ●女と男のフォーラム

講師に原宿カウンセリングセンター所長の信田さよ子さんをお迎えして2月24日(日)13時30分～15時30分、中央公民館ホールで開催されました。

ホール一杯の市民のみなさんを前に信田さんは、「家族のあり方を考える」というテーマで話されました。家庭内で起こる母親による幼児虐待、子どもの

ひきこもり、摂食障害、うつ、依存症などの背後には必ず親である父母の夫婦関係に問題があり、しかも親であればだれもが子どもの心を何がしか傷つけているというお話に、目立って多かった男性はドキッとさせられたのではないのでしょうか。



### ●女と男の参画講座(平成19年11月～平成20年2月)

「ココロとココロでわかりあう～フェアな関係は楽しいハズ!～」と題して全4回が行われました。

- ①サザエさんから考えてみる「アニメの中の女と男」
- ②これもDV?～「知ってほしいこの現実、わたしの気持ち」
- ③「結婚」の経済学～「専業主婦って、ホントにお得?」
- ④語り合える扉はきっと見つかる!～「ココロとココロでわかりあう」

## 表紙 作品

### 『植物のささやき』(キャンパス、アクリル絵の具)

アーティスト(画家) ● 祐成勝枝(小川西町在住)

「作品をつくってれば幸せ」と言う祐成さんは、その言葉通り、来る日も来る日も制作に打ち込む。

—どんな気持ちで作品をつくっていらっしゃるのでしょうか?

「作品をつくるというのは地道な仕事です。どういう作品をつくるか"方向"を決め、ルールを調達し、列車をつくりルールに乗せ、列車を動かす。何もかも自分でやらないとどこへも行けないんですね」

—なるほど。では、その列車はどこに向かうのでしょうか…?

「走らせてみないことには分らないのです。ですから、とても孤独で不安な作業です」

—もし、間違っていると気づいたら?

「はじめからやり直しですね。そんなことの繰り返しです。でも私は、その向こうに輝く塊のようなものを感じていて、そこへ行かなければならない、行って塊の正体を見たい、という思いに引っ張られ、それだけを燃料に進んでいるんですよ」

アーティストの耳がとらえた、かすかな緑のささやきが、書架のある空間で春の音楽を奏でている。



撮影:祐成 政徳  
協力:小平市中央図書館

チェアウオーカー(車椅子ユーザー)のための雑誌「wawawa」の表紙を6年間担当

## テレビ番組

### 『クローザー』(LaLaTV 放送)

ちょっと前なら、刑事に必要なものは、その経験から生み出された知識だったでしょう。しかし、最近その経験がかえって事件の解決を難しくしているケースが増えている。たくさんの人々が、たくさんの生き方を選び、強いられている現代では、犯罪に立ち向かう人たちの経験を、観念的な先入観にしてしまう。

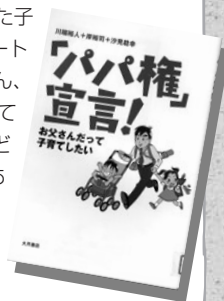
容疑者の自白を引き出して、事件をクローズする「クローザー」ブレンダは、LA市警「殺人特捜班」のチーフとしてアトランタから赴任してきたCIA仕込みの尋問術を持つ女刑事。先入観で凝り固まった警察組織の中で、自分の目と耳で犯罪の仕組みを解きあかすブレンダの型破りな行動は、生き生きとして頼もしい。先入観に捕われず、自分も殺さず(生かし)、相手も殺さず(生かす)やりたいことを貫くにはどう対処したら良いのか。ヒントになりそうなドラマかも。

## BOOK

### 『「パパ権」宣言 ～お父さんだって子育てしたい～』

川端裕人、岸裕司、汐見稔幸著 大月書店

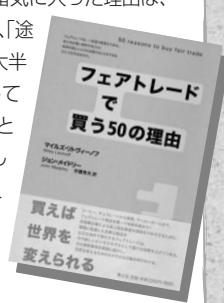
43歳、55歳、60歳、年代も違うが、子育てへの関わり方も違う3人の筆者が、自らの体験や研究を通して得た子育ての楽しさを綴った本である。年代の近い筆者のパートから読み始めるのもよし、教育の専門家である汐見さん、地域での子育てを実践している岸さん、兼業主夫をしている川端さん、書かれている内容から入るのもいい。どこを読んでも、仕事では体験できない世界が子育てにあり、体験して初めて知る子育ての醍醐味が語られている。男性向けの「子育て入門書」としてお勧めしたいが、子育ては子を持つ親の「権利」でなく「義務」であることも忘れてほしくない。(き)



### 『フェアトレードで買う50の理由』

マイルズ・リトヴィーノフ/ジョン・メイドリー著  
市橋秀夫訳 青土社

フェアトレードは「私たちが買い物をするごとに世界の貧しい人々を助けることのできるひとつの方法」だそうだ。50の理由のうち一番気に入った理由は、8「女性と少女に権限と自信を持ってもらう」だ。なぜなら、「途上国では、女性が食品や工芸品の大半を生産し、衣料品の大半も作っている。しかし、彼女たちはいまだに二級市民としての扱いを受けていることが多い。フェアトレードを買うことは、ジェンダーの平等を勝ち得るための手助けの素晴らしいひとつの方法である」から。これはフェアトレードの入門書のようなだが、あとがきで、もっと詳しく知りたい人のために雑誌「南北問題と現代思想をつなぐ季刊at[あっと]」(太田出版)が紹介されている。



### 『コーヒーの真実』

アントニー・ワイルド著  
三角和代訳 白揚社

副題は「世界中を虜にした嗜好品の歴史と現在」、原題は「coffee a dark history」。『フェアトレードで買う50の理由』の中でも本当のフェアトレードをしているのは世界で一社だけだと書かれているように、コーヒーを飲む人の数が多いため儲けも半端ではなく、当然フェアな取引にはなりにくい商品だ。イスラム世界から広まったこと、あのセントヘレナ島でコーヒーが栽培されていたこと、奴隷制度なしにはコーヒーは語れないこと、そして今も搾取があることなど、「世界を変えた琥珀色の液体」についてわかったことが書かれている。著者が様々なことと結びつけて書きすむるので、次はどんなこととつながるのかと興味を持って読むことができる。



行って  
みました

# 緊急サポート・ピッコロ (特定非営利活動法人子育てネットワーク・ピッコロ)

## 清瀬市

平成18年度から厚生労働省は緊急サポートネットワーク事業を始め、東京都社会福祉協議会がその事業を受託し、町田市と中野区と清瀬市で実施しています。設立時から病児保育事業を続けてきたピッコロは事業を再委託され、医師会と連携して行っています。代表の小俣さんを訪ねました。

### 〇病児保育が求められている

子育てネットワーク・ピッコロの事務所は清瀬駅北口から徒歩5分のマンション1階にあります。10年前、(財)女性労働協会と清瀬市男女共同参画センターの共催で行われた「保育サービス講習会」の修了生のうち16名で作りました。子育て支援があれば、仕事を持つ女性たちが仕事を続けることができます。また仕事をしていなくても、子育て中の女性たちが子育ての不安や悩みを減らして楽しみを見つけることができます。現状をなんとかしたいという思いで預かる理由を問わない24時間対応・訪問型一時預かり保育の活動が始まりました。その中でも病児保育のニーズが多いことに気づかされてきました。5年前、特定非営利活動法人の認証を受け、さらに様々な子育て支援の活動を継続できる体制をとっています。清瀬市には1日の定員が4名の病後児保育の場所がありますが、とても足りる数ではありません。「時間がかかっても来てほしい」という切実な声からも分かるように、働く親たちは病児の保育を望んでいるようです。

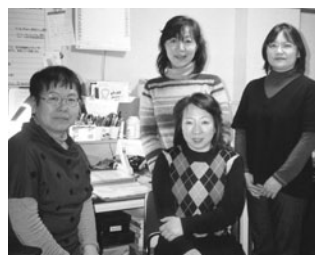
### 〇緊急サポートの内容

ピッコロには病気の子どもの保育を頼みたい利用会員と病気の子どもの保育をする提供会員がいます。ピッコロは利用会員と提供会員のコーディネートをしたり、提供会員になるための小児科医によるピッコロ独自の研修を行ったりします。現在、利用会員が133名、提供会員が56名いますが、利用希望者がどんどん増えているため、提供会員を増やすことが必要になってきます。ファミリー・サポートの研修を受けた人が、次にこの緊急サポートの研修も受け

て提供会員に登録する仕組みを作り、24時間研修と17時間の研修は無料で行います。50代から60代の女性たちが提供会員の戦力です。病気の子どもを病院に連れて行って受診してから、利用者宅で保育をします。

### 〇市民の力の大きさ

研修が大事なことはもちろんですが、「病気をしないで育った子はいません。病気だからと構えないで対応してほしい。」と、小俣代表は言います。いつも同じ提供会員が保育に行き、ファミリー・サポートと連携して(ファミサポの運営もピッコロが受託している)、普段の子どもの様子も分かる会員が病気の時にも保育に行きます。だから、子どもにとってよい環境ができています。「地域をよく知っている人たちが細やかな対応をしながら、子育て中の人をサポートするのがよい。」と語る小俣さんの力強い言葉に市民の力の大きさを感じました。



小俣さん(手前中央)とスタッフ  
うれしいとき:まちで子どもに“ピッコロさん”と呼ばれる時/買い物途中、出会った会員のお母さんに「子育てが終わったら支援したい」と言われるとき

ピッコロのホームページ <http://www.piccolonet.org>



NPO(特定非営利活動)法人  
子育てネットワーク・ピッコロ  
〒204-0021 清瀬市元町1-5-16  
マンションパール101号  
TEL 090-8304-1076  
TEL/FAX 042-492-1139

### 小平市でも病後児保育が始まりました

病気の回復期にある子どもを保護者の就労などの理由から、家庭で保育ができないときに、一時的に預かる病後児保育の利用

が3月10日から始まりました。事前登録が必要です。病後児保育室あいびー(花小金井5-1-4) 問合せ:小平市次世代育成部保育課(☎042-346-9594)

## 編集後記

●「ひらく」で写真を撮っているOさん、パートナーの看護に半年、かいあって回復されたのですが、さすがにお疲れが出たのか本人が病床に。今は回復に向かっていますが、私にとって他人事ではありません。労をねぎらいながら自らの気を引き締めています。(き)

●笑いは人間だけに許された、害のない鎮痛剤。ストレス社会の中で、この鎮痛剤がなにより潤滑油になるのに、結構ないがしろにされている。自分を笑える心の余裕が足りないのかも知れませんが。(S)

●「ひらく」の表紙は「小平に縁深い作家の作品を小平のどこかで撮影する」のが基本。図書館で撮影したのは初めて。そして、初の絵画作品。春は間近。(わ)

●対等じゃない場面で、ハナから威嚇する人はまだいい。ごもつとも近づいて自分の意見をどうしても認めさせようとする人がやっかいた。そういう人を江戸時代の人たちはなんと呼んだらう?(ゆ)

●昔のこと。あらゆる言い分を聞いてもAとなるはずが、絶対にBという人がいた。Aでは自分で別々になる、というのが理由だった。最後の部分だけが別次元の論理になるのだが、妙に納得したなあ。(さ)

## ひらくはココにあります

男女共同参画センター「ひらく」・公民館(11館)・図書館(11館)・地域センター(17館)・福祉会館・総合体育館・児童館・健康センター・市役所1F2F・東部、西部出張所・郵便局(17か所)・市内各駅(7か所)・八坂駅・萩山駅・東大和市駅

小川町 多加楽・男塾の店・歩・商工会館・JA東京むさし・コーヒーロッジベル

上水本町 アトリエ・パンセ 小川西町 佐野商店

小川東町 キャラリ 青らんぎ・長江宴・フレッドファクトリー510・うつわと珈琲 悠・カフェAir

津田町 ハタエコンサーン 鈴木町 和菓子の玉川屋・きららはうす

学園西町 絵画アトリエ サンローズ・中森書店・百の豆木・梁里館・美容室へアークラッシュ 鈴木小児科・本間歯科・おろろサンライズ・あかね薬局・床屋のけんちゃん

学園東町 日本堂文具店・梅の里・アクティブスタジオ・りそな銀行小平支店・グリーン・バン・カフェ

美園町 多摩済生病院・ラグラス・珈琲の香・POEM・永田珈琲・ルネこだいら

天神町 公立昭徳病院・カフェテリアヴェルデ・碧イロ「のぶ」・アーサーソンひろ

大沼町 萬屋酒店 花小金井 上原薬局・風のシンフォニー・辰砂

訂正:21号でコーヒーロッジベルの位置を小川東町と書きましたが、正しくは小川町でした。お詫びして訂正いたします。